



飯館村を通った

原発放射能被害地域

日本美術会の写生会で福島県の飯館村や南相馬市小高区を訪れた。3・11の原発事故の時、南南東の風で流された放射能に襲われた被害地域だ。そこは居住制限区域だが、昼間通過することは出来る。

居住制限区域では

人が住めないのです。ガラス戸をしつかり閉めカーテンを引いている。人も犬猫の気配も無い街。田畑は雑草が生い茂る。一部の畑は雑草の切り株だけ、何も無く土の所もある。除染作業の結果だろうか。三連休の為、除染作業は見られない。

原発ゼロ見送り？

先週、政府は二〇三

〇年に原発ゼロを目指す戦略を決めた。経団連の米倉弘昌会長はこれに猛反対。この財界や米国の圧力を受けて十九日の閣議で原発ゼロは消えた。
原発を稼働と云うなら
原発を稼働せよと云うなら、米倉会長はこの飯館村や、原発周辺の放射能汚染地域の町村で説明すべきだ。住民を説得できない方針など政策として論ずるべきでは無い。3・11から一年半、未だに住民は帰還も生活の目処も立てられない。セシウム137の半減期は30年。十分の一になるのに百年、百分の一には二百年。本当に安心できる千分の一になるには三百年もかかるのだ。
みなさんはどう思われますか？

相馬市松川浦



福島県の太平洋岸の北の端に相馬市がある。そこに「松川浦」という内湾がある。太平洋との間には標高四〜八メートル、幅百メートル位の狭い半島がある。松林があり、内湾は海苔の養殖場になっていた。しかし、3・11大津波はこの半島を乗り越え、一部を押し流した。絵の橋は太平洋に通ずる水路にかかる橋。そのそばにあった海道水産の建物も津波に襲われた。一階の壁は打ち破られ、壁を支える軽量鉄骨は押し曲げられていた。
あれから一年半、地割れた海岸沿いの道路の復旧工事が進められていた。しかし、地盤沈下した漁港の施設は、瓦礫が撤去されただけ。もっと、復興予算をこちらに振り向ければ・・・と思う。